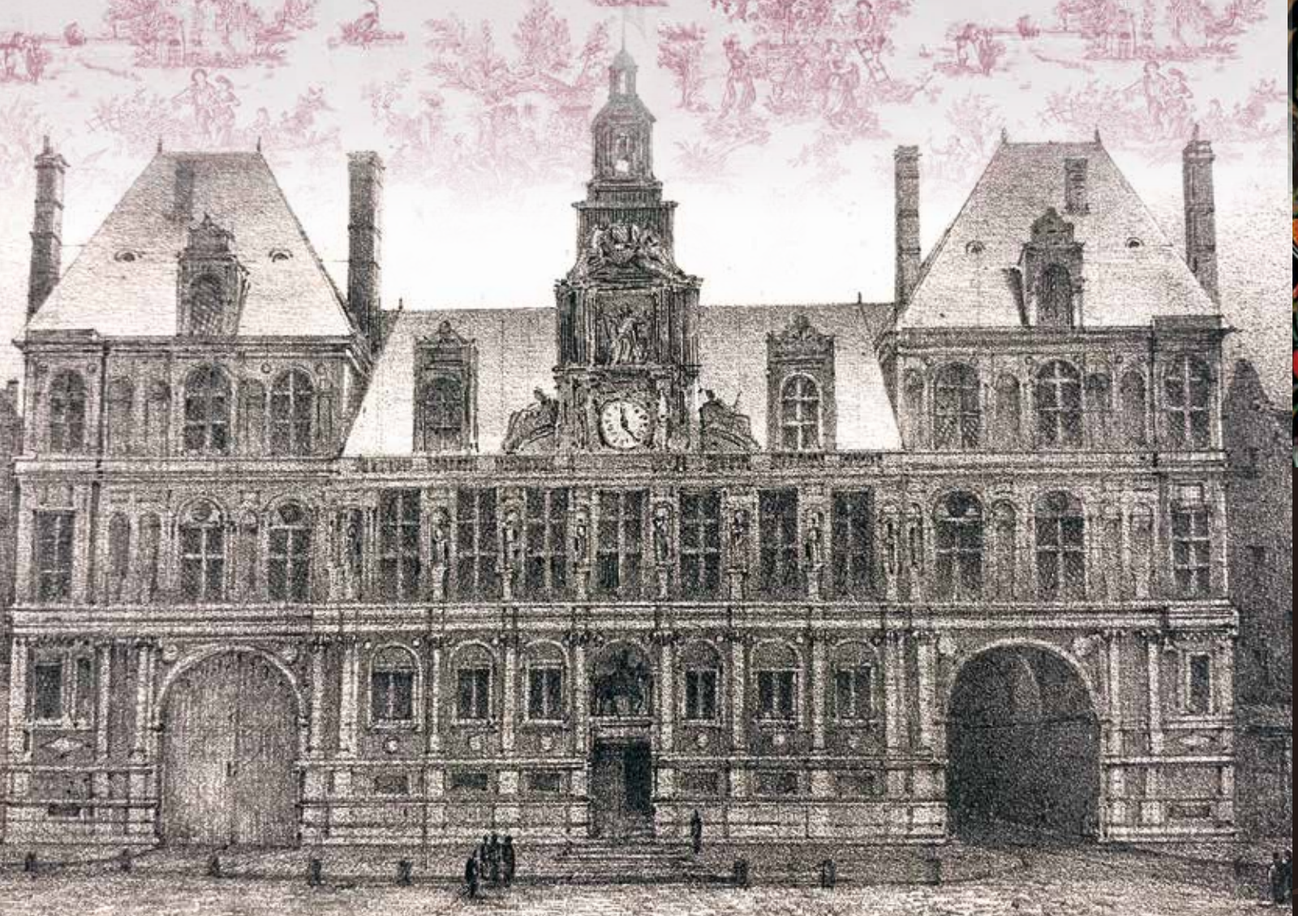
編集・発行：滋賀大学経済経営研究所
〒522-8522　滋賀県彦根市馬場 1-1-1
滋賀大学彦根キャンパス
総合研究棟〈士魂商才館〉1 階
2020 年 1 月 7 日発行
https://www.econ.shiga-u.ac.jp/ebr.html

SHIGA UNIVERSITY



企画展

はるかなる手紙

―滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡

2020. 1.7 (Tue) → 12.25 (Fri)

Clément Colson 第 1 期　クレマン・コルソン
1月 7日 火 ―4月 30日 木

Léon Say 第 2 期　レオン・セー
5月 7日 木 ―8月 31日 月

François Guizot 第 3 期　フランソワ・ギゾー
9月 2日 水 ―12月 25日 金

企画展

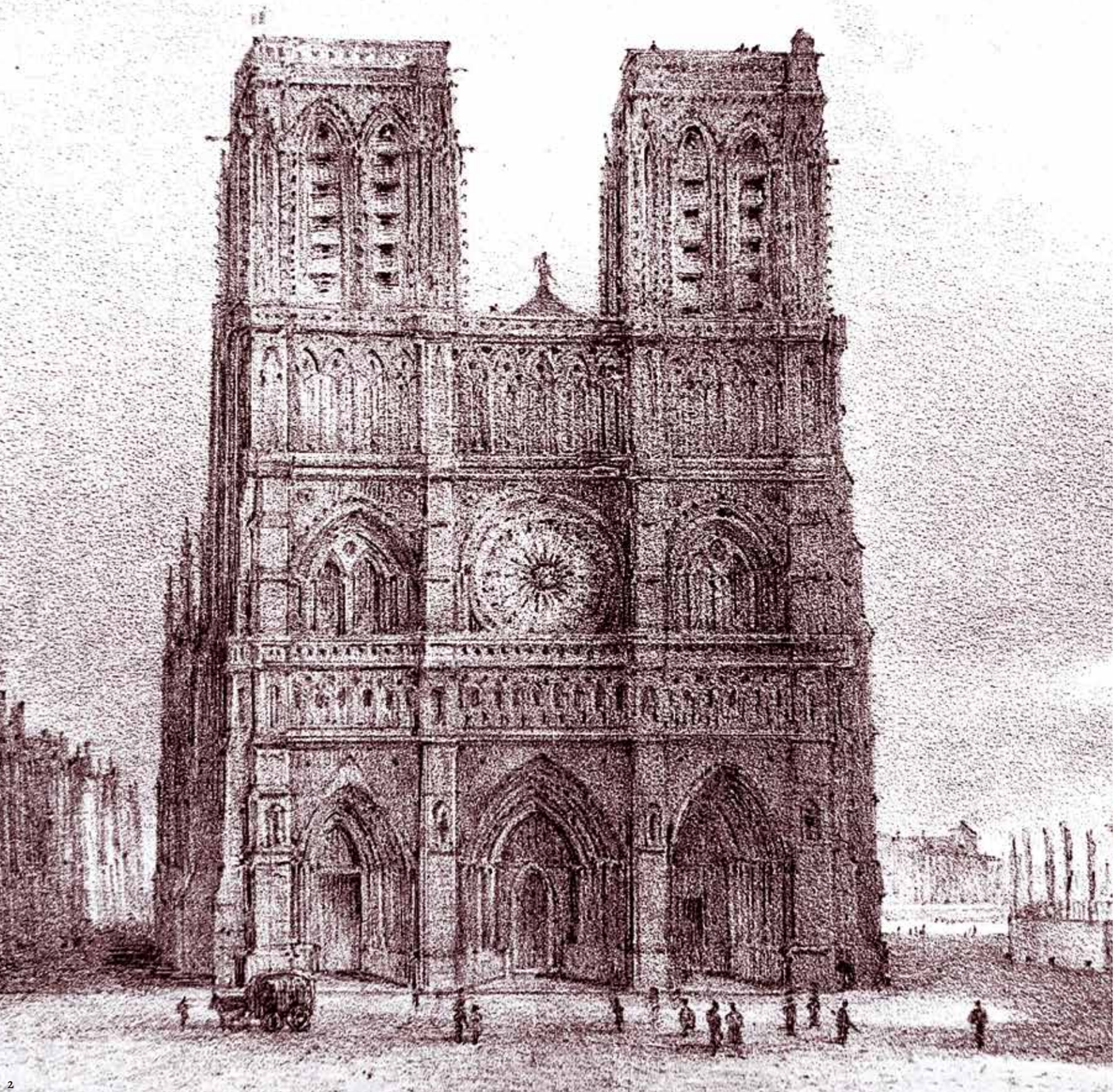
はるかなる手紙

ー滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡

✔ 第１期：Clément Colson クレマン・コルソン
▮▶ １月７日（火）～４月30日（木）

第２期：Léon Say レオン・セー
▮▶ ５月７日（木）～８月31日（月）

第３期：François Guizot フランソワ・ギゾー
▮▶ ９月２日（水）～12月25日（金）



ごあいさつ

今回の展示では、滋賀大学が所蔵する、フランスの３人の歴史的人物の自筆書簡を３期にわたって紹介します。これらの書簡はいずれも、偶然のめぐり合わせで滋賀大学にやってきたものです。

第１期に展示するのは、経済学者コルソン（Clément Colson,1853-1939）による1923年付の書簡２通です。コルソンは、学者としてだけでなく高級官僚としても華々しい活躍をした人です。

第２期に展示するのは、経済学者レオン・セー（Léon Say, 1826-1896）の1883年付の書簡です。セーもまた財務大臣を３度つとめ、日本銀行の設立にも大きな影響力を及ぼしました。

第３期に展示するのは、著名な歴史家で、首相としても名を馳せたギゾー（François Pierre Guillaume Guizot, 1787-1874）の1833年付の書簡です。

本展示では、書簡の内容だけでなく、歴史的背景や、舞台となったパリの雰囲気もお伝えし、皆さんをはるかなる場所と時間の旅に誘います。

2020年１月

監修：御崎 加代子（ミサキ カヨコ）
滋賀大学経済学部教授（専門分野はワルラスを中心とする経済学史、フランス経済思想史）

参考文献：

御崎 加代子（資料紹介）「滋賀大学図書館所蔵 Clément Colson(1853-1939) の書簡について」『彦根論叢』第380号、滋賀大学経済学会、2009、89-99.

御崎 加代子（資料紹介）「滋賀大学図書館所蔵 Léon Say から Alfred de Foville への書簡（1883）」『彦根論叢』第412号、滋賀大学経済学会、2017、68-71.

御崎 加代子（資料紹介）「滋賀大学図書館所蔵 François Guizot の自筆書簡（1833）について」『滋賀大学経済学部研究年報』Vol.25、滋賀大学経済学部、2018、123-126.

企画展関連年表

1787年 フランソワ・ギゾー生まれる。
1789年 フランス革命始まる。
1799年 ナポレオン・ボナパルトがクーデターを起こし、統領政府を樹立。
1804年 ナポレオンが皇帝の地位につき、第一帝政始まる。
1814年 ナポレオン退位し、エルバ島に流される。翌年ルイ18世が王位につく。
1826年 レオン・セー生まれる。
1830年 七月革命。オルレアン家ルイ＝フィリップが即位。七月王政が成立。
1832年 ギゾー公教育大臣に就任（37年まで）。
1833年 ギゾーからカトルメールへの書簡（第3期展示）
1848年 二月革命。ルイ＝フィリップ追放。ギゾー亡命。第二共和政成立。
1851年 ルイ＝ナポレオン・ボナパルトのクーデター。
1852年 ルイ＝ナポレオン・ボナパルトがナポレオン３世として皇帝の地位につく。
第二帝政成立。翌年よりセーヌ県知事オスマンによる「パリ改造」始まる。
1853年 クレマン・コルソン生まれる。
1870年 普仏戦争始まる。翌年、フランス敗退し、ナポレオン3世失脚。
1871年 パリで民衆蜂起。パリ＝コミューン宣言。コミューン鎮圧後、第三共和政成立。
1872年 レオン・セー財務大臣に就任（73年まで）。
1874年 フランソワ・ギゾー死去。
1875年 レオン・セー財務大臣に就任（79年まで）。
1883年 レオン・セーからド・フォヴィルへの書簡（第2期展示）
1887年 エッフェル塔の建設が始まる。89年一般公開。
1889年 レオン・セー財務大臣に就任。
1896年 レオン・セー死去。
1897年 ドレフュス事件始まる。
1914年 第一次世界大戦勃発。ドイツと開戦。
1918年 休戦条約。
1919年 パリ講和会議。
1923年 クレマン・コルソン、国務院の副院長に就任（28年まで）
1923年 コルソンからピネへの書簡（第1期展示）
1923年 ルール占領始まる。（25年まで）
1939年 クレマン・コルソン死去。
1939年 第二次世界大戦勃発。ドイツに宣戦布告。

La Liberté guidant le peuple（民衆を導く自由の女神）1830 年 / Ferdinand Victor Eugène Delacroix / ルーヴル美術館蔵

ドラクロワ (Ferdinand Victor Eugène Delacroix, 1798 - 1863) は、フランスの 19 世紀ロマン主義を代表する画家です。
La Liberté guidant le peuple（民衆を導く自由の女神）は、1830 年に起きたフランス七月革命を主題に描かれました。
本企画展「はるかなる手紙」の舞台は、1830 年代、1880 年代、1920 年代のパリです。

TITLE
はるかなる手紙
滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡
1st. Clément Colson
2nd. Léon Say
3rd. François Guizot

写真 : ©Bibliothèque numérique patrimoniale des ponts et chaussées

第 1 期 : クレマン・コルソン (1853-1939)

クレマン・コルソンは、19 世紀末から 20 世紀にかけて、フランスで活躍したエンジニア・エコノミストの代表格である。「エンジニア・エコノミスト」とは、フランスの近代化の過程において公共事業にたずさわった高級官僚であり、職業上の必要性から経済理論の発展にも多大なる貢献をした。

コルソンは経済学者として、交通経済学の先駆けとして、またフランスで最初に国民所得の算定を行った人物として有名である。彼は経済学の教育・普及においても活躍し、同時に官僚として輝かしいキャリアを築きあげた稀有な人物である。2007 年度に滋賀大学図書館が購入した、彼の代表作『経済学講義』（全 6 巻）のうちの第 1 巻『経済現象の一般的理論』（1907）の中に挟まれていた手書きの書簡 2 通は、コルソンが官僚としてのキャリアの最高峰、国務院の副院長を務めていた頃に書かれたものである。

第 2 期 : レオン・セー (1826-1896)

レオン・セーは、フランスの自由主義経済学者、実業家、政治家であり、「セー法則」で有名な経済学者 J. B. セー（Jean Baptiste Say, 1767-1832）の孫にあたる。レオン・セーは、フランスの財務大臣を 3 回務め（1872-73 年、1875-79 年、1889 年）、日本の明治政府ともゆかりのある人物として知られる。日本銀行の創設者である松方正義が 1870 年代ヨーロッパ滞在中に、当時の財務大臣レオン・セーから強い影響を受けたのである。

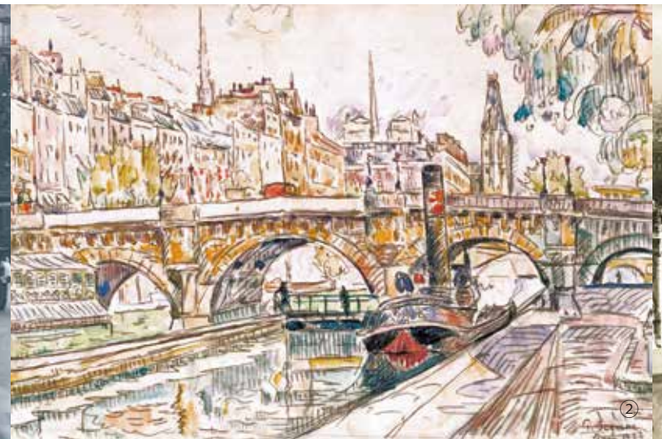
滋賀大学附属図書館は、レオン・セーの著書『フランスの財政―1881 年 12 月 15 日から 1882 年 12 月 20 日までの 1 年間の議論』を所蔵している。この本には、著者のレオン・セーが、有名な統計学者アルフレッド・ド・フォヴィル（Alfred de Foville, 1842-1913）に宛てた自筆書簡がそえられており、その内容から判断して、本書は、セーがド・フォヴィルに献呈した本であった可能性が高い。

第 3 期 : フランソワ・ギゾー (1787-1874)

ギゾーは、19 世紀前半に活躍したフランスの著名な政治家、歴史家である。

滋賀大学図書館は 2018 年 2 月に、ギゾーの代表作『ヨーロッパ文明史：ローマ帝国の崩壊からフランス革命まで』の英訳版（1839）を購入した。その本には、1833 年 8 月 13 日付のギゾーの自筆書簡が添付されていた。

ギゾーはフランスの七月王政期、1832 年から 1837 年まで公教育大臣の職にあり、数々の教育改革に携わった。この書簡が書かれた約二か月前、1833 年 6 月 23 日には、有名な初等教育法案「ギゾー法」が成立している。この書簡も公教育省の便せんが使われ、肩書も「公教育大臣」となっている。書簡の内容は、神学部のヘブライ語教育に関するものである。



1920s Paris

①オペラ座界隈
戦間期にあたる1920年代のパリは、大幅な人口増加に伴い、公共交通網の整備が急がれていた。自動車は、一般的な通勤手段としてはまだ普及していなかった。

②Tugboat at the Pont Neuf, Paris（ポン・ヌフのタグボート、パリ）1923 年 / Paul Signac（ポール・シニャック）/ メトロポリタン美術館蔵
セーヌ川とシテ島にかかる橋、「ポン・ヌフ（Le Pont Neuf）」は、日本語に訳すと「新しい橋」という意味であるが、1630年から1660年にかけて建築された、パリで最も古い橋である。

③アレクサンドル 3 世橋とアンヴァリッドのパノラマビュー（ポストカード）1920-30 年頃

Clément Colson
クレマン・コルソンの生涯（1853-1939）

コルソンは、1853年 11 月13 日にヴェルサイユに生まれた。

少年時代は、哲学に興味をもっていたが、1873 年に、理科系のエリートが集まる、理工科学校（エコールポリテクニーク・Ecole Polytechnique）に入学し、著名な数学者ポワンカレ（Henri Poincaré,1854-1912）とは同じクラスで学んだ。その後、土木技師を養成するエリート校、土木学校（Ecole des Ponts et Chaussées）で土木技師になるための教育を受け、卒業後、国務院（Conseil d'État）の修習官になるための試験を受けた。そしてこの試験に受かったときから、コルソンの輝かしいキャリアが始まる。

1879年に建設省（Ministère des Travaux Publics）に入ったコルソンは、鉄道、道路、航海、鉱山部の副局長となり、1894 年には、鉄道部の局長となった。この間、コルソンは、公共事業、特に交通にかかわる経済問題に関心をもち、その解決に多くの時間とエネルギーを費やした。第一次大戦前後には、政府内で最も影響力があるとされた、同省の財政部門のトップに任命された。今回展示した書簡が書かれた1923 年当時は、フランスの行政職における最高の地位である国務院の副院長にのぼりつめており、1928年の引退までその地位にあった。

コルソンは、官僚としてのみならず、教育者としても大きな功績をあげた。1885 年に高等商業学校（Ecole des Hautes Etudes Commerciales・現在の HEC 経営大学院）において「輸送」の授業を導入し、1892 年には、母校である土木学校の教授に任命され、1932 年までその地位にあった。また1905 年には、政治科学自由学校（Ecole Libre des Sciences Politiques）の教授になった。これは、戦後、多くの首相や政治家を輩出したパリ政治学院（IEP）の前身となる学校である。

また忘れてはならないのが、コルソンの統計学へのアカデミックな貢献である。彼は 1906年統計学国際機関のメンバーになり、1918 年から1936 年までフランスの一般統計会議の会長、1929 年には統計学会の会長に就任している。

ポール・ビネ所蔵
コルソン著『経済学講義』（全 6 巻）

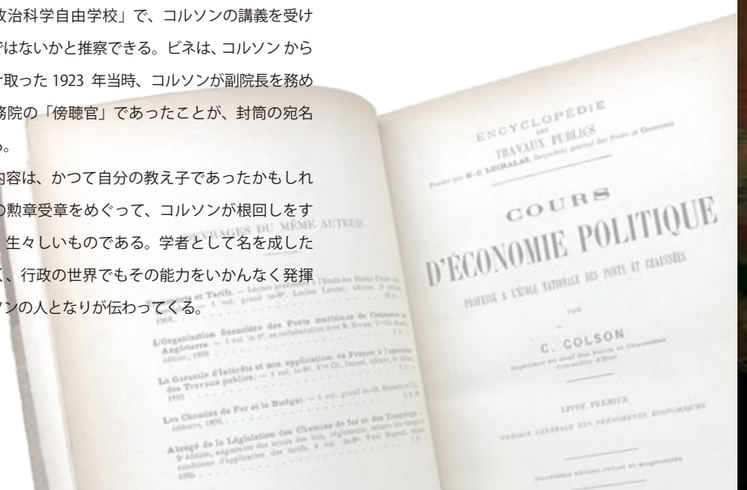
2007 年度に滋賀大学図書館が購入した、コルソンの代表作『経済学講義（Cours d'économie politique）』（全 6 巻）のうちの第 1 巻「経済現象の一般的理論」（1907）の中に、監修者は偶然、手書きの書簡 2 通がはさまれているのをみつけた。そしてこの 2 通は、著者であるコルソンの手によるものであることが判明した。この著書は、コルソンが土木学校での授業の教科書として書いたもので、当時のエンジニア・エコノミストや官僚たちのための百科事典として位置づけられていた。

全 6 巻の大作である『経済学講義』は、最初 1901 年から 07 年にかけて公刊された。最後の改訂は 1924 年から 33 年にかけて行われ、第 7 巻が付け加えられた。滋賀大学が所蔵する『経済学講義』の第 1 巻「経済現象の一般的理論」は1907 年に公刊されたもので、第 1 巻の第 2 版にあたる。

滋賀大学所蔵の『経済学講義』全 6 巻すべてに、「ポール・ビネ 政治科学自由学校 パリ 1912 年」と記されたとびらがつけられており、その所有者がポール・ビネという人物であったことがわかる。そしてこのポール・ビネこそが、コルソンの書簡の受取人なのである。

このとびらに記されている「1912 年」は、コルソンが「政治科学自由学校」で教鞭をとっていた時期にあたり、『経済学講義』はそこでの教科書として用いられていた可能性がある。1912 年当時、ビネは、高級官僚養成校の前身である「政治科学自由学校」で、コルソンの講義を受けていたのではないかと推察できる。ビネは、コルソン から書簡を受け取った 1923 年当時、コルソンが副院長を務めていた国務院の「傍聴官」であったことが、封筒の宛名からわかる。

書簡の内容は、かつて自分の教え子であったかもしれないビネの勲章受章をめぐって、コルソンが根回しをするという、生々しいものである。学者として名を成しただけでなく、行政の世界でもその能力をいかんなく発揮したコルソンの人となりが伝わってくる。



TITLE
はるかなる手紙
滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡
1st. Clément Colson
2nd. Léon Say
3rd. François Guizot

コンセイユ・デタ
国務院（Conseil d'État）とは？

今回展示している書簡では、コルソンが当時副院長を務めていた、国務院（Conseil d'État）の便せんが使われている。国務院は、フランスにおける最高位の行政・諮問機関であり、1799 年ナポレオン・ボナパルトによって創設され、1872 年の法律でその機能が最終的に定められた。国務院は、法案作成等を受け持つとともに、最高行政裁判所の機能ももち、4 つの行政・立法部（内務、財政、公土木、社会）と争訟部で構成され、司法大臣が院長をつとめるが、その関与は形式的で、副院長が実質上の長である。

Installation du Conseil d'État au palais du Petit-Luxembourg, 25 décembre 1799
（1799 年 12 月 25 日リュクサンブール宮殿における国務院の設立）1856 年
/ Auguste Couder（オーギュスト・クデル）
/ ベルサイユ宮殿美術館蔵

フランスの勲章制度

展示書簡では、勲章授与が話題となっているが、フランスの現在の勲章制度を作ったのもナポレオン・ボナパルト（Napoléon Bonaparte, 1769 - 1821）である。フランスでは、革命期の 1791 年に、それまでのすべての勲章制度が廃止されたが、1802 年、ナポレオンは、現在も続くフランスの最高勲章（レジオンドヌール勲章）制度をつくった。当初は、功労のあった軍人および一般市民に与えられる名誉勲位として制定された。現在は、日本人を含む多くの外国人にも授与されている。

Napoléon dans son cabinet de travail（書斎でのナポレオン）1812 年
/Jacques-Louis David（ジャック＝ルイ・ダヴィッド）
/ ワシントン・ナショナルギャラリー蔵

Palais-Royal
パレ・ロワイヤルの歴史

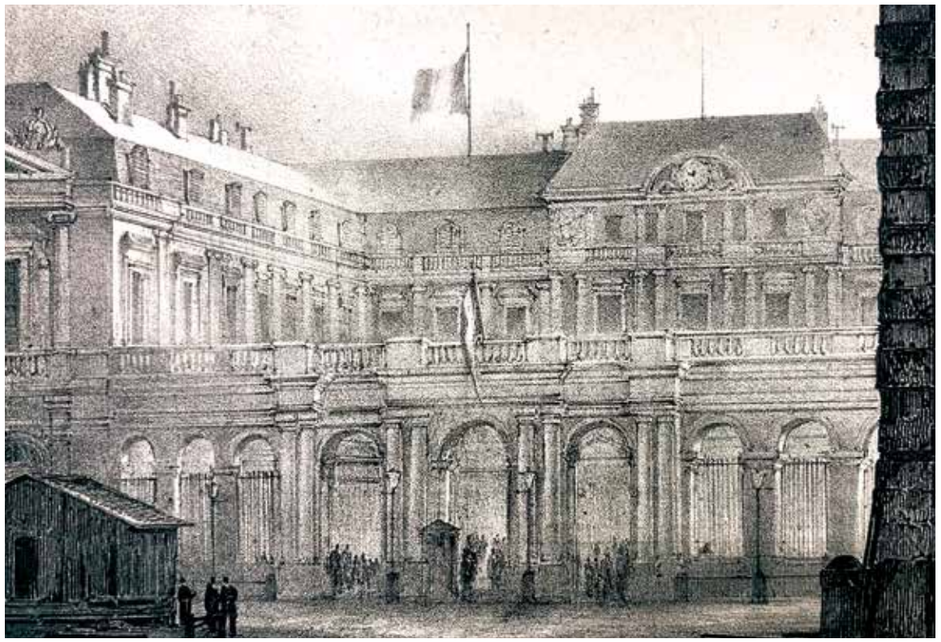
書簡の舞台となった国務院は、現在、パリのパレ・ロワイヤル（Palais-Royal 王宮）内にある。パレ・ロワイヤルはルイ13世の宰相リシュリュー（1585-1642）が 17世紀の初めに建造した館である。

リシュリューの死後、太陽王ルイ 14 世（1638-1715）が子供時代をここですごしたため「王宮」と呼ばれるようになった。

1692 年にパレ・ロワイヤルは、ルイ 14 世の弟のオルレアン公ルイ＝フィリップ (1640-1701) の手に渡り、その孫であるフィリップ平等公（1747-1793）は、フランス革命直前の1780年代、庭園内に造った建物を商人たちに貸し出し、借金の返済にあてた。当時、警察の立ち入りが禁止されていたパレ・ロワイヤルは、娼婦が行きかう繁華街となり、また革命家たちの拠点ともなった。

1815 年にパレ・ロワイヤルは、オルレアン家に返還され、第二帝政の下では、ナポレオン・ボナパルトの末弟であるジェローム・ボナパルト (1784-1860) が所有した。国務院は 1875 年以来パレ・ロワイヤルにおかれている。現在、パレ・ロワイヤルには、国務院、文化庁などの行政機関とともに、ルイ 14 世が設立した国立劇場「コメディ・フランセーズ」も入っている。

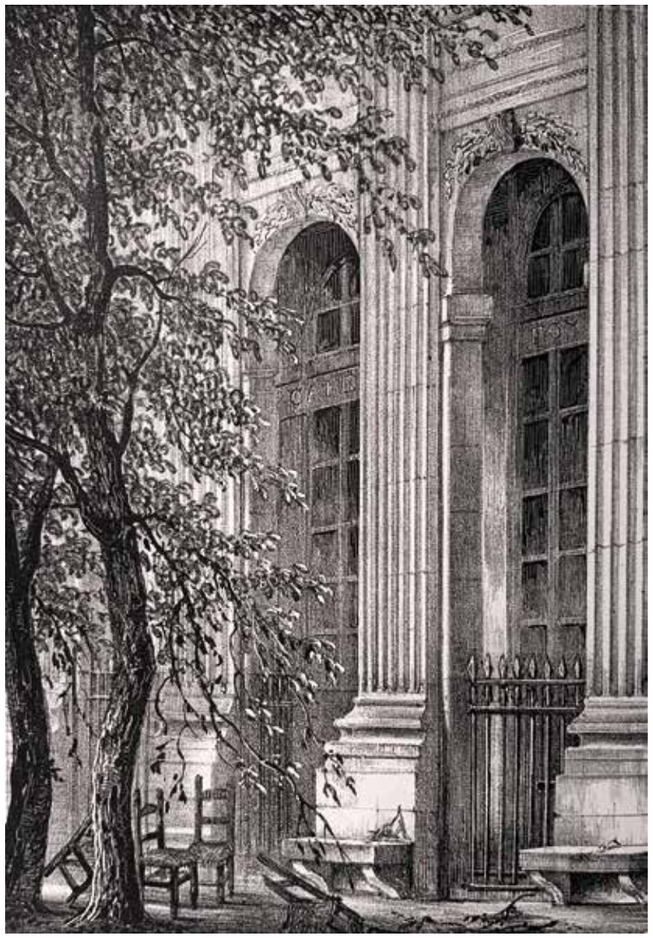
Louis XIV en costume de sacre（ルイ 14 世の肖像）1701 年
/Hyacinthe Rigaud（イアサント・リゴー）
/ ルーヴル美術館蔵



Palais-Royal.(パレ・ロワイヤル)

Paris historique: promenade dans les rues de Paris, par Charles Nodier, Auguste Regnier et Champin; avec; un resume de lhistoire de Paris, par P.Christian [pseud.] Pris: F.G.Levrault, 1838-1839

現在のパレ・ロワイヤル　2006 年撮影



Jardin du Palais-Royal.(パレ・ロワイヤルの庭)

Paris historique: promenade dans les rues de Paris, par Charles Nodier, Auguste Regnier et Champin; avec; un resume de lhistoire de Paris, par P.Christian [pseud.] Pris: F.G.Levrault, 1838-1839

数学者 アンリ・ポワンカレ（Henri Poincaré）

ポワンカレ（Henri Poincaré, 1854-1912）は、理工科学校（エコールポリテクニーク）でコルソンと同級生であった。ポワンカレは 1873 年に同校で一位の成績を修めている。ポワンカレの卓越した研究は、数論、関数論、微分方程式、位相幾何学から天体力学にまで及んだ。

現代の数理経済学の基礎を築いた経済学者ワルラスは、1901 年 9 月に、効用（満足）の数学的表現について質問状をポワンカレに送った。それに対してポワンカレは、「計測不可能な量も、あなたが守っている一定の条件の下では、完全に数学的表現の対象となりえます」と返答した。ワルラスとポワンカレのこのようなやりとりは、現代経済理論の歴史に大きな影響を及ぼすことになった。

Henri Poincaré

デュピュイと「消費者余剰」

フランスの公共事業にたずさわった「エンジニア・エコノミスト」たちは、現代の経済理論の発展に大きな貢献をした。その中でも最も知られているのは、「消費者余剰」の概念を初めて説明したデュピュイ（Arsène Jules Etienne Juvénal Dupuit, 1804-1866）であり、コルソンの大先輩にあたる。

デュピュイは1822年、理工科学校（エコールポリテクニーク）に入学し、1824年に土木学校に入学した。理工科学校は、1794 年、革命政府により設立され、土木学校などに入学する学生が基礎科学を修得するための学校と位置付けられるようになっていたが、当時、土木学校に入学を許されたのは、理工科学校で優秀な成績を収めていた者だけであった。

デュピュイは、生涯、数多くの公共事業に携わり、また土木学校での経済学の教育、研究においても、大きな貢献をした。1850 年には、パリの公共事業を受け持つ主任エンジニアとなり、ナポレオン 3 世に指名されたセーヌ県知事オスマンと対立しながら、パリの上下水道の整備にとりくんだ。1855 年には、土木公団の全国監察官に昇進し、その地位のまま、1866 年パリで死去した。

職業上の理由から、デュピュイは、道路や橋などが、生み出す社会的利益をいかに評価するかという問題にとりくんだ。重要な論文は、『土木年報』に掲載された「公共事業の効用の測定について」(1844 年) である。ここでデュピュイは、現代経済学でおなじみの「消費者余剰」と同じ概念を説明している。現代の教科書では、1870 年代の限界革命が現代経済学の始まりとされているが、デュピュイはそれを先取りする貢献をなしとげていたのである。

Arsène Jules Etienne Juvénal Dupuit
© Ecole des Ponts Paris

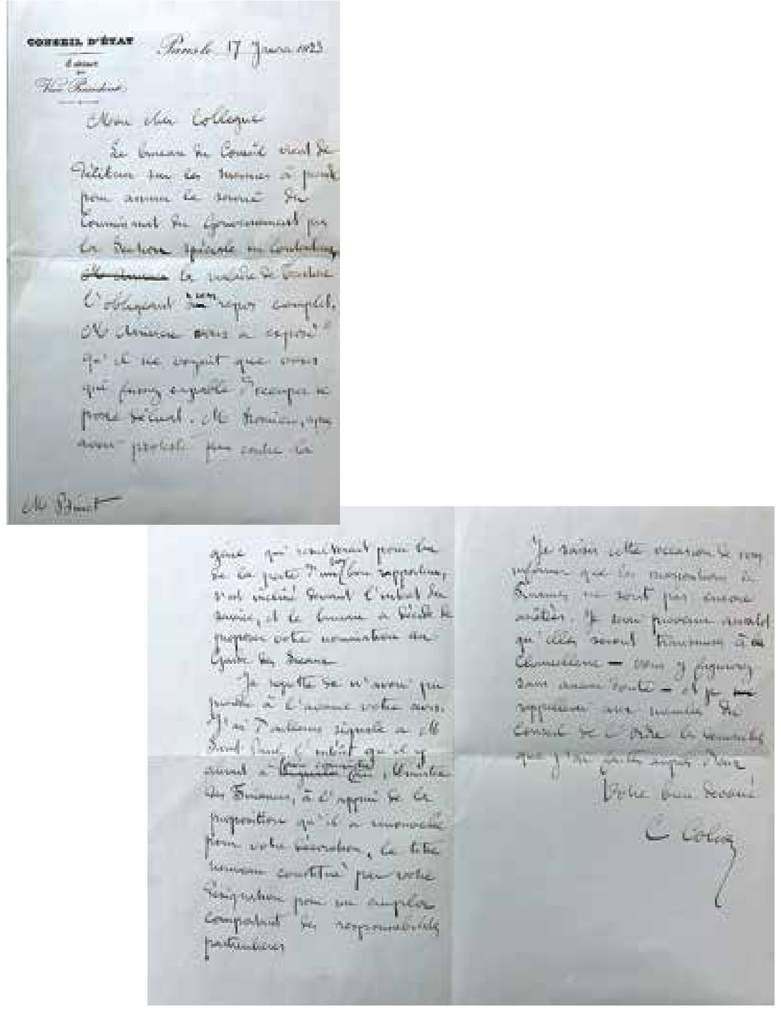
ワルラス『純粋経済学要論』（1926）決定版

レオン・ワルラス（Léon Walras, 1834-1910）は、一般均衡理論の創設によって、現代経済学の理論的基礎を築いたフランスの経済学者である。当時のエンジニア・エコノミストたちの華々しい活躍とは対照的に、ワルラスは自らの経済学をフランスで普及するのに大変苦労をしていた。

1870 年にフランスを離れ、スイスのローザンヌ大学で教鞭をとっていたワルラスは、そこで数理経済学の研究に没頭し、1874 年から 77 年に主著『純粋経済学要論』（初版）を出版した。そこで展開された一般均衡理論はスイス、イタリア、アメリカなどに普及し、国際的な名声を勝ち得たが、意外なことに母国フランスでは受け入れられなかった。フランスの高等教育機関で教えたいというワルラスの夢はついにかなうことはなかったのである。

実は、ワルラスは青年時代、理工科学校（エコールポリテクニーク）への入学に 2 度挑戦し、結局果たせなかったという挫折を経験している。その後入学した鉱山学校も中途退学しており、フランスでは正式な高等教育を受けていない。現代の数理経済学の基礎を築いたワルラスは、デュピュイやコルソンの輝かしい学歴とは無縁のアウトサイダーだったのである。

Léon Walras


CONSEIL D'ÉTAT

Paris le 17 Janvier 1923

Mon cher Collègue

Votre bien dévoué

C. Colson

▲ポール・ビネへ宛てたコルソン直筆の書簡 (1923 年 1 月 17 日)
/ 滋賀大学附属図書館蔵

TITLE
はるかなる手紙
滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡
1st. Clément Colson
2nd.Léon Say
3rd.François Guizot

国務院
副院長官房

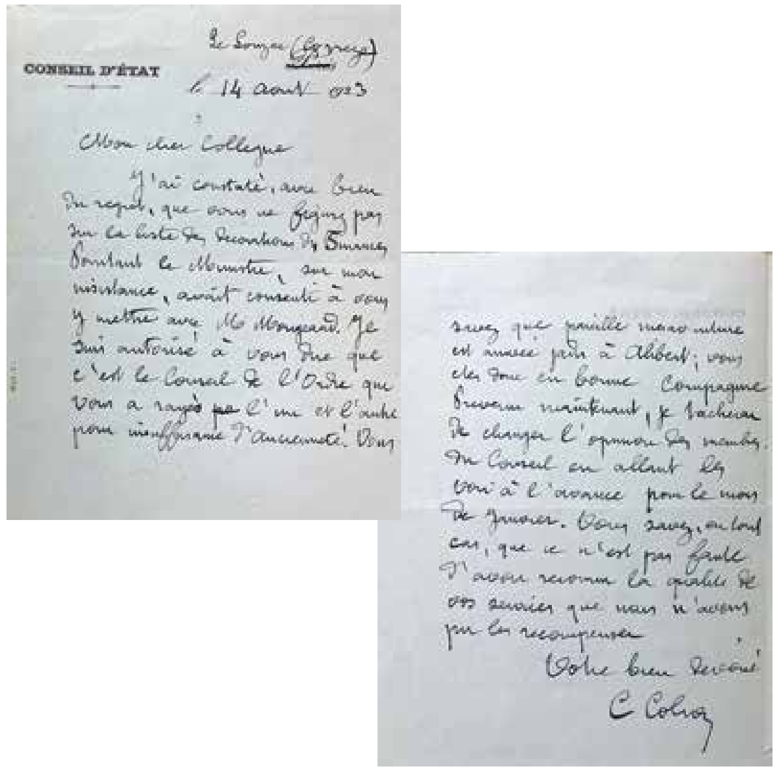
1923 年 1 月 17 日パリにて

親愛なる同僚へ

国務院の事務局は、訴訟の特別課に政府の委員職を確保するために取るべき手段について討議したところです。[?]の病のために、それは完全に休止することを余儀なくされていました。アリヴィエール氏は我々に、この難しい任務に就くことができるのは、あなたにおいてほかはないと説明しました。ボニエ氏は、彼にとって、とてもよい報告者を失う結果、生じるであろう不都合に抗議したあと、その任務のメリットに従うことにし、事務局は、あなたの任命を司法大臣に提案することを決定しました。私は、前もってあなたに相談できなかったことを悔やんでいます。さらに私はサン＝ポール氏に、あなたの勲章のために彼が書き換えた提案を根拠として、財務大臣に知らせるべきメリットのことを指摘しました。特別な責任を伴う業務にあなたを任命することにより生じる肩書きのことです。
この機会を利用してお知らせしますが、財務省の[?]はまだ終わっていません。それらが勲位局に手渡されたらすぐに、知らせてもらえるでしょう。あなたがそこのリストに載ることは疑いありません。私は、勲位委員会のメンバーに、私がした要求について念を押しておきます。

[?] … 解読不能

敬具
C. コルソン


CONSEIL D'ÉTAT

le 14 août 1923

Mon cher Collègue

Votre bien dévoué

C. Colson

▲ポール・ビネへ宛てたコルソン直筆の書簡 (1923 年 8 月 14 日)
/ 滋賀大学附属図書館蔵

国務院

ル・ロンザック（コレーズ県）にて
1923 年 8 月 14 日

親愛なる同僚へ

残念ながら、財務省の勲章リストにあなたの名前がないことがわかりました。しかしながら、大臣は、私が主張したため、あなたをムジョー氏とともに、リストに付け加えることに同意していました。年功の不足からあなた方二人をリストから消したのは、勲位委員会だということをお伝えします！ 似たような内部的処置は、かつてアリベールにも行われました。したがってあなた方は良き仲間だというわけです。今や知らせを受けたので、1 月のために前もって委員会のメンバーに会いに行き、彼らの意見を変えるつもりです。おわかりのように、いずれにしても、あなたの業績の質を認識しそこなったのではありません。我々はそれに報いることができなかったのです。

敬具
C. コルソン